

3連覇阻止一歩候補は

やはり筑波大学

駒大の3連覇を阻止する一歩候補はなんと筑波大学であろう。大学界で中山雅史(ジュビロ磐田)など輩出した名門校は今年、怪物・平山相太(国見高校出身)らを加え磐石の体制でむかえた。

前期リーグは5勝2分と安定した成績でトップをキープ。後期の注目はなんと、いつも平山相太がどだけ出てくるのかということ。U-19のアジア予選が9月15日〜10月11日まで行われるためこの期間の出場はないだろう。したがって10月16日以降に行われる第4節からの出場が濃厚だ。そのため第6節に行われる駒大戦には前回のようなハブニング(前回は体調不良のため欠場)がない限り出場してくるだろう。しかし、その平山がいなくても筑波大にはタレントがひしめく。新生ユニバの中心選手となりつつある藤本淳吾(桐光学園出身)、攻撃センス抜群の秋田政輝(市立船橋高校出身)、昨年のユニバ優勝メンバーでセカンドストライカーとしての動きが絶妙な兵働昭弘(八千代高校出身)。数えたらキリがないほどのタレントを擁す。失点4という抜群の守備力にも注目したい。2年目の木山監督のサッカーも根付き成熟を迎えた筑波大。後期も首位争いに絡んでくる事は間違いない。

ダークホース・流経大は

不気味な存在

筑波大について後期、駒大の難敵になりそうなのが流経大。今季1部に昇格したばかりのチームだがFC東京への来季入団が決まっている栗澤僚一(習志野高校出身)を中心にしたチームは攻撃のバランスがよくスピードディナミックな攻撃の2位の座を確保。後期も首位戦線のキーマン的存在になってくるだろう。注目選手はFC東京でも活躍している栗澤。得点ランキング2位の杉本恵太(鹿島高校出身)と岡本勇輝(前橋育英高校出身)の2トップ。2年生の船山祐二(流通経済大学付属柏高校出身)も注目したい選手の1人だ。

はなかなか波に乗れず過去戦績に比べればマイチの感は否めない。しかし、過去のデータからどんなに調子をおとしていても駒大戦は強いというのが国士大。その証拠に今年も全体の成績は振るわないものの駒大戦は勝利している。注目は春、ヴェルディの合宿にも参加していた清水康也(ヴェルディユース出身)。フィジカルが強く、チャンスメイクを得意とする選手。国士大には他にもFWの金子央朋(東福岡高校出身)、MFの土屋貴啓(岐阜工業高校出身)、養父雄仁(弥栄西高校出身)、DFの竹内彬(向上高校出身)などタレントは揃っている。後期、首位戦線に絡んでくるだけの戦力は十分備えている。大学サッカー界の名門がこのままの順位で終わるとはとも考えられない。

下位チームは混戦。

どのチームが巻き返してくるか

東京学芸大学は今季、戦力ダウンがひびき下位に低迷している。昨年は岩政大樹(鹿島アントラーズ)など関東選抜に7人を送り込むタレント集団だったが中心選手である岩政、松浦、櫻本などが卒業した今年、その穴を埋めれず苦戦している。特にディフェンスラインは鈴木博之(名古屋ユース出身)など期待の若手もいるが経験不足の感は否めない。昨年コンスタントに出場していたのが2年目の黒田達也(滝川第二高校出身)ただ1人では。しかし、もっともダメージが大きいのが攻撃面。前期8得点は8チーム中下から二番目。後期巻き返しを図るには久保田学(帝京高校出身)、岡島弘高(静岡学園高校出身)などポテンシャルを秘めた選手たちの爆発が必要だろう。攻守のキーマンとしては保坂一成(ヴェルディユース)にも注目して欲しい。

前期6位で終了した順大は8チーム中最多の23失点がひびいてしまった。特に大量失点が多く国士大、駒大に5失点、流経大に6失点喫している。ただ、FWの多田源一郎(柏ユース出身)、鴨川奨大(分崎高校出身)は好調で守備への不安が払拭されれば上位進出も夢ではないだろう。そこで鍵となるのがユニバ代表候補でもある中村英之(帝京高校出身)。8月に行われたユニバの試合でも安定した



MF兵働 昭弘(4年・筑波大)
 八千代高校出身
 【前期】5得点のアシスト
 動きが絶妙で、攻撃能力に優れ、勝負のユニバ優勝メンバーのひとり



MF藤本 淳吾(3年・筑波大)
 桐光学園高校出身
 【前期】3得点のアシスト
 確かな左のキックで筑波大の攻撃陣を牽引。新制ユニバ時代の中心選手でもあった



FW平山 相太(1年・筑波大)
 国見高校出身
 【前期】2得点
 大学サッカーではまだ未知数な部分がおおいが実力は日本トップクラス。1年目から怪物伝説を作ってしまうのか!?

これらの7チームとの戦いを制していかなければ駒大のリーグ3連覇はない。首位・筑波大との勝ち点は5。優勝した過去2年間よりも厳しいスタート。そして、王者として様々なチームの標的にされることは必至。だが、大巨杯の優勝を経てチームとして成熟を見せ始めている駒大。駒大は追われるよりも追うほうが得意。もう一度粘り強さを見せていきたい(小林亮)。後期、王者駒大の逆襲が始まる。